http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

２月号　　第２２２号
発行日　平成２２年２月１日（月）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子市散田町３－３４－３
ＴＥＬ　（０４２）６６３－７６７６
発行人・渋谷　昭男
編集者・杉渕　清

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

碁楽連のボランティア

碁楽連理事　　杉渕　清

碁楽連会員の動向を調べてみた。データが手に入る平成 17 年度から平成 21 年度の平均年齢の変化に注目した。4 年間の平均年齢は、平成 17 年度の 69.7 歳から、21 年度の 73.9 歳へと推移していた。この数字は二つの傾向を表していると思われる。

その一つは、平均年齢の推移は、歳を重ねながら碁を楽しんでいて、脱落者の少ない現在の状況を表しているように思える。喜ぶべきことだ。歳をとっても楽しめる趣味を持ち、碁を打てる相手を持ったわれわれ碁楽連会員は幸せである。碁楽連の目的は、楽しく碁を打てる機会を提供し、会員間の親睦を図ることであると、この「碁楽連だより」の冒頭にも示されている。この第一義的な目標は達成されていると考えてよいだろう。

上記と裏腹の関係であるが、この指標は碁楽連の一つの課題も示しているように思われる。平均年齢の変化には在籍メンバーの加齢がそのまま反映しているのだが、4 年間の変化が 4.2 歳であるから計算は合っているようにみえる。しかし新人の加入が多ければ、この平均年齢という指標はあまり動かない筈だ。上のデータは若い（？）人の加入が少ない状況を表している。

碁楽連にはさまざまな囲碁大会がある。それぞれ参加者も多く、勝利者には昇段という栄誉が与えられる。そのとき重要なことは、碁楽連の評価がそれなりの権威を持つことだ。お手盛りの甘いものと評価されるものでは励みにならない。現在の碁楽連の尺度は、日本の中では妥当なものになっていると素人ながら思う。碁楽連がこのような権威を維持することは重要なことだ。そのための一番簡単な手段は大きな大会にすることである。そのような機会を作り、運営することがもう一方の碁楽連の役目である。この運

営にはかなりのエネルギーを必要とする。元気のある人が入会し、運営に参画してくれると有難い。このような人材がすくないと碁楽連の運営が難しくなってくる。今年、ある同好会の退会があったが、同好会の面倒をボランティアでみてくれる人がいないことが、一つの大きな原因と聞いた。ボランティアをやるには、大抵逡巡する。私の経験でもとてもやれる自信は無かった。しかしやってみると、碁を打つのとは異なる充足感を味わえる。

若い会員を増やす積極的な方策が、今の碁楽連に必要になっている。

第 11 回棋聖大賞囲碁大会の結果

棋聖大賞大会が、去る１月２４日に開催された。今年の大会は、競技参加者が４６名であった。新機軸として、７段のうち希望者に対し三浦相談役の指導碁も行われ、盛会であった。

参加者（46 名）	優勝	準優勝	第三位
A組（７段以上）22 名	河津征夫　北野／7 段	高本　衛　台町／7 段	吉沢　實　恩方／7 段
B組（６段以下）24 名	松本健彦　石川／6 段	端山昌夫　台町／6 段	鈴木浩治　大和田／4 段

◎第１０回、第１１回碁楽連理事会報告

日時　平成２１年１２月１９日９：００～１２：００、
　　平成２２年1月9日９：００～１２：００　いずれも東淺川センター
出席　渋谷、望月、刀根、塚原、端山、杉渕
１棋聖大賞大会開催要項を審議、決定した
　１)三浦相談役はシードされ準決勝より参加、予選時間中は指導碁をお願いする。　２）理事は競技に参加　３）淺川同好会に２名の競技委員の派遣依頼、　４）女性２名の接待を依頼、）　５）名札全員着用、リボンは招待者と役員着用
２　タイトル囲碁大会の開催要項を審議、例年にならって実行することとした。

◎後期会費納入のお願い

規約では年度内に納入すればよいことになっているのですが、３月中旬に総会をやるようになって、事務上は２月中旬に納入いただければ好都合です。可能なところはご協力いただければ有難い。

◎平成 21 年度地区タイトル戦　優勝者・準優勝者

	名人戦	王　座　戦		天　狗　戦	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
淺川	真田誠次７段 小野雄二３段	草木昭臣３段 吉田　旭７段	吉永満男３段 吉永満男３段	尾池秀夫４段 木村一男６段	中村益大２段 中村益大２段
恩方	吉沢　實７段 渕上和男７段	笠原純吉６段 五十嵐寛７段	竹内朝晴４段 荒井　正４段	苫米地憲昭４段 齋藤　健４段	山崎　稔４段 竹内朝晴４段
元八王子	入山慧三５段 武居成一３段	吉田征也６段 森本通峻初段	久保田勇１級 長島　廣４段	笠原　正４段 藤森立喜４段	森本通俊初段 久保田勇１級
中野	宮崎誠一５段 浜中武夫２段	望月毅士３段 浜道　進２段	濱中武夫２段 磯部信広６段	清水文彦６段 矢野亮一４段	矢野亮一４段 中村　靖３段
大和田	井出道明２段 鈴木浩治４段	山崎　満２段 小川　勝３級	鈴木浩治４段 佐藤久雄３段	秀島照次４段 鈴木浩治４段	山崎　満２段 栗原久男２段
石川	金本好正６段 田村　強３段	水野義嗣４段 三宮敬典４段	森下武司５段 坂本勝男７段	大山芳雄４段 松本健彦６段	石川幌二４段 平松隆治３段
台町	江口靖碩７段 高本　衛７段	高本　衛７段 市川公雄４段	雨宮三男３段 吉田信夫６段	高本　衛７段 古賀憲秀３段	下山正夫２段 塩津　浩６段
由木	三田　優５段 大場芙美夫７段	桑田明典３級 奥山武平４段	中森久隆１級 川野吉弘３級	一戸十二４級 滝本喜久治４級	川野吉弘３級 上野光雄１級
北野	古賀照也６段 山県文雄６段	山県文雄６段 河津征夫７段	高野道行５段 安原　明５段	古賀照也６段 佐藤義晴４段	中田宣久６段 古屋常男３段
長房	藤盛　茂５段 小田辰郎４段	小田辰郎４段 小沢美智子４段	大房賢次１級 塚原和利７段	塚原和利７段 市川隆一６段	安西　実５段 藤盛　茂５段
川口やまゆり	山下健吾７段 松崎幸雄７段	井上國臣４段 廣島松治５段	辻日出男３段 辻日出男３段	餘多分明男４段 山本良宣３段	松崎邦夫６段 藤野誠二３段

◎同好会だより

「囲碁」有難う

長房寿囲碁同好会　　川合　義章

私が囲碁を覚えたのは小学生の頃である。やり方を覚えただけで、実際に打つように

なったのは、就職した職場に囲碁好きな人達がいて、「昼休み碁」からはじまって職場の囲碁部に入り、下手な囲碁を楽しんでいた。

しかし、何とか初段に手が届くようになった頃、初段の免状が欲しくて、土曜日の午後、仕事の帰り道、プロ五段で引退した方の開いている囲碁教室に通ったり、本を読み、NHK の囲碁講座を見るなどそれは一生懸命頑張ったことを思い出す。

その労が報われて、昭和５２年２月に日本棋院から当時一線で活躍している棋士の署名入りの初段の免状を得ることができて大変うれしかったのを思い出す。

その審査委員の一人に昨年なくなった棋聖藤沢秀行のサインも入っていた。今、思うと私にとって貴重な免状となった。

その５ヶ月後に、私は小笠原の父島に赴任することになった。

東京港の竹芝桟橋を出て、当時、約 40 時間位かけてやっと着くほど日本では一番遠いところである。

一緒に赴任する医者からこれを飲めば大丈夫と船酔いの薬をもらったが、太平洋の大荒れには勝てず、ひどい船酔いに苦しみながら、やっと父島に着いた。

しかし、港に着くと現地の人々、職員の大歓迎、そして、何より、真っ青な空と海、真っ赤に咲き誇るハイビスカス、そして小笠原の素晴らしい自然に感激したのを覚えている。

そこでの仕事は東京都が行っている日本に返還された小笠原の復興事業である。土日もなく仕事に追われる日々。しかし、仕事が終わった後の生活はテレビもなく娯楽らしい娯楽もない単調な島での生活である。そうした中で単身赴任の私にとって囲碁ができること、そしてちょうど初段を取ったことで趣味と言えるような自信を持てたことが幸いした。

職場では上司や部下の囲碁好きな人が集まり、リーグ戦をしたり、酒を飲みながらの楽しい対局は小笠原の厳しい二年間の赴任生活での楽しい思い出として残っている。

この後、いろいろな職場に異動しても、必ず囲碁を通じた交流があり、現役を退いた今でも年に３回ほど一泊して囲碁を楽しむ会が続いている。対局の楽しみとその後の酒を飲みながらの談笑は囲碁が取り持ってくれる素晴らしい人間関係である。

私にとって「囲碁」有難うである。

また、１０年ほど前から長房寿囲碁同好会に入れていただき、お世話になっている。ここでも地域の方々との囲碁を通じたふれあいと交流ができることに感謝している。

本当に「囲碁」有難うである。

編集後記　　棋聖大賞大会で思ったことですが、高段の方の見事な対局態度に感銘を受けた。どうも囲碁を技術のみから考えていたような気がして、反省しきりである。